



私たちは誠実に行動します

三菱地所グループでは社会とのコミュニケーションを重視し、誠実かつ謙虚な姿勢でまちづくりの担い手の一人として責任を果たすために、コンプライアンスの推進や透明性の高い経営・ガバナンス、情報公開を通じて、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションに努め、社会の要請に応えていきます。また環境対策や社会貢献活動に積極的に取り組み、次世代へ「真に価値ある社会」を引き継いでいきます。

Report I

22	コーポレート・ガバナンス
23	コンプライアンス
25	取引先との取り組み
26	情報開示とIR活動
27	社会貢献活動
29	環境マネジメント
31	環境目標と取り組み実績
33	環境への取り組み
39	環境会計

コーポレート・ガバナンス

透明性の高い経営をめざして

三菱地所では2003年4月に導入した執行役員制度のもとで、経営・監督機能と業務執行機能の役割分担を明確にし、透明性の高い経営体制づくりを進め、さらなる経営の効率化、意思決定の迅速化を図っています。また取締役会の経営・監督機能の強化の観点から2006年6月開催の定時株主総会において3名の社外取締役が選任され、さらに2007年6月開催の定時株主総会において社外取締役を4名としました。

経営監視の仕組み

重要な業務執行や法定事項に関する決定は取締役会が、また、業務執行の監督・監査は取締役会と監査役会が行っています。取締役会は毎月1回のほか、必要に応じて適宜開催しています。監査役監査は、各監査役の取締役会への出席、常勤監査役の経営会議への出席、業務執行状況のヒアリングなどによって行われます。また「監査役室」を設置し、監査役業務を補佐しています。さらに社長直轄組織の「内部監査室」は、リスク評価をもとに策定された年間監査計画に従って、内部監査を実施しています。

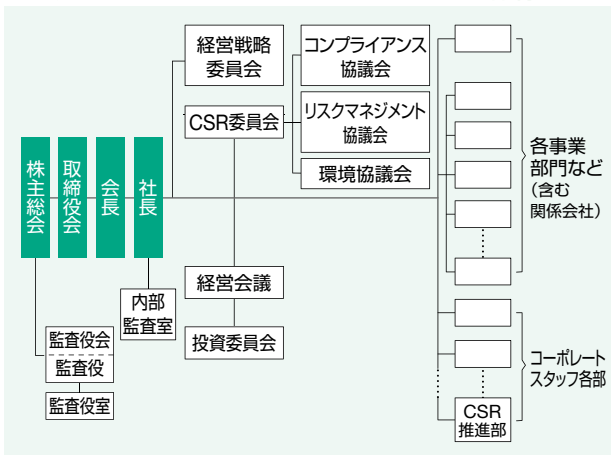
経営意思決定の仕組み

経営の意思決定にあたっては、決定事項のスケールや重要度に応じて委員会や会議を設けています。三菱地所グループ全体の経営戦略については「経営戦略委員会」が設けられ、社内取締役、専務以上の執行役員のいずれかに該当する者、および社長が指名する者が出席します。業務執行に関する重要案件の意思決定は、社長をはじめ各担当役員、常勤監査役、社長の指名する者で構成される「経営会議」で行い、原則として週1回開催しています。経営会議の下部組織である「投資委員会」は特に重要な投資案件について経営会議に先立って開催し、論点の整理を行います。

リスクマネジメント

三菱地所グループすべての事業活動を対象にリスク管理体制・制度を整え、「三菱地所グループリスク管理規程」を策定しています。リスク管理の統括機関として「CSR委員会」、実務的な合議体として「リスクマネジメント協議会」を設置し、リスク管理体制の強化を図っています。リスク管理統括責任者にはCSR推進部担当役員を、リスク管理責任者には各事業部門の部署長やコーポレートスタッフ部署長などを任命し、部門内管理と統括管理を実施しています。

■ 三菱地所グループのコーポレート・ガバナンス体制



日常の仕事のなかで確実に機能を

三菱地所では、将来のあるべき姿を見据えたうえでコーポレート・ガバナンスの仕組み、体制が確立されています。しかしそれらは実際の現場で生きてこそ意味があるもの。今後は、いかにその仕組みを日々の仕事で確実に機能させていくかが課題です。三菱地所は、ビルの賃貸やマンション販売にとどまらない「まちづくり」を事業としている企業です。その社会的責任と使命を改めて認識したうえで、社員一人ひとりがしっかりと倫理観をもって仕事に取り組んでいきましょう。



常盤 文克氏
社外取締役

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制

三菱地所グループではコンプライアンスを、「法令の順守だけでなく、社内ルールや企業倫理の順守」と定義しています。

三菱地所のコンプライアンス体制づくりの原点は、1997年の商法違反事件の反省に立った役職員の意識と組織の改革にあります。同年に「業務監理委員会（現:CSR委員会）」、「渉外監理室」を設置し、「三菱地所行動憲章」を制定して改革のための基本姿勢を明確にし、全社で危機感を共有して改革へとつなげていきました。

その後2005年4月には「CSR推進部」を新設し、同年7月には大阪アメニティパーク（OAP）の土壌・地下水問題の反省に立ち、コンプライアンス体制を客観的に見直すことを目的に、社外有識者からなる「コンプライアンス特別委員会」を臨時に設置し、行動憲章の改正など企業体質のさらなる改善に向けた取り組みを進めました。

また、コンプライアンスの総合的管理と推進業務を担当する「コンプライアンス担当役員」を三菱地所の取締役会決議によって任命しています。コンプライアンス関連の審議を行う「CSR委員会」に先立つ事前協議の場として、三菱地所コンプライアンス担当役員、コーポレートスタッフ担当役員、各部長、内部監査室長、主要グループ会社の社長が指名する者などをメンバーとする「コンプライアンス協議会」を設置しています。

CSR推進部による啓発活動

三菱地所グループのコンプライアンスを推進するCSR推進部では、コンプライアンス担当役員の補佐、CSR委員会やコンプライアンス協議会の事務局などの役割を担っています。

コンプライアンス啓発活動の推進や情報提供、ヘルプラインなどでの相談の受け付け、コンプライアンス研修の開催やガイドブック・ビデオなどの啓発ツールの作成、グループ各社の研修支援、コンプライアンスの浸透状況をアンケートなどで確認するモニタリングなどの業務を実施しています。

情報管理コンプライアンスの徹底

個人情報保護や情報管理についての社会的要請の高まりを受けて、三菱地所グループでは、2003年から「情報管理コンプライアンス」という考えのもと、個人情報の管理体制を整備しました。

2003年5月に「三菱地所グループ情報管理コンプライアンス基本規程」、「三菱地所グループ個人情報保護方針」を、個人情報保護法施行（2005年4月）に先立って策定し、現在もモニタリングや監査などを通じて、個人情報の管理の充実・強化を図っています。

また職務上で知り得た情報・営業機密といった、一切の機密情報を法令などに基づいて厳重に管理し、外部への漏洩防止にも努めており、情報の適切な入手・管理のための取り組みを進めています。

個人情報保護に関する事故と対策

2006年4月、三菱地所を含む5社が販売したマンションで、その広告業務を委託した会社の再委託先からファイル交換ソフト「Winny」のネットワーク上でお客様の個人情報（約2,500名分の氏名、住所、電話番号など）が流出したことが判明しました。

この事態を受け、お客様の個人情報を扱う外部委託先でのデータの保管状況やファイル交換ソフト利用の有無などに関する緊急点検を実施。再発を防止するために社内外の情報セキュリティへの取り組みをさらに強化するとともに、委託先の情報管理体制の確認などを入念に実施しています。

また、不動産サービス事業を行う三菱地所リアルエステートサービスでは、お客様の個人情報を取り扱う業務が多いことから、プライバシーマーク使用許諾の認定を受けるとともに、個人情報を含む業務や作業を外部に委託する際の条件や規定を具体的に記した「個人情報保護外部委託管理規程」を策定し、委託先での個人情報保護の徹底に努めています。

反社会的勢力への対応

三菱地所グループでは反社会的勢力との一切の関係遮断を「行動指針」に明記しています。また専門部署を設け、反社会的勢力から接触があった場合には、関係先とも相談しながら、グループ全体で毅然とした対応をとっています。

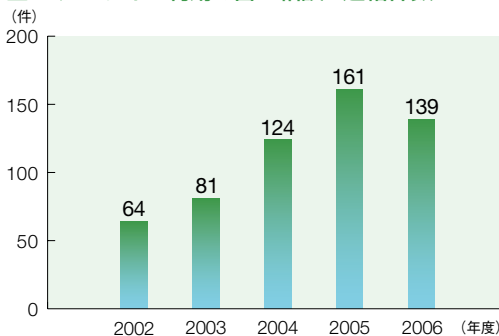
コンプライアンス意識浸透のために

ヘルプラインの充実

コンプライアンスに関するさまざまな疑問や相談を受け付ける、三菱地所グループの相談・連絡窓口として「ヘルプライン」を設置しています。ヘルプラインには内部受付窓口と外部受付窓口があり、グループ社員、派遣社員、パート社員、アルバイトスタッフはもとより、グループ各社の取引先も利用できます。匿名の相談も受け付けており、2006年度の相談・連絡件数は139件でした。

三菱地所では2006年4月施行の公益通報者保護法について社員へ周知・徹底するために、ポイントの解説を社内ネットで配信するとともに、グループ会社のコンプライアンス担当責任者に対しても同内容の情報提供を行いました。

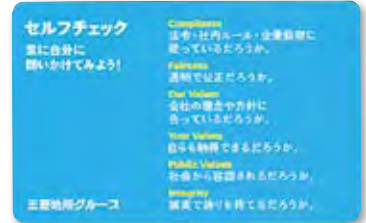
■ ヘルプライン利用を含む相談・連絡件数



ツール類の配付

コンプライアンス意識を浸透させるためのツールとして「セルフチェックカード」や「三菱地所グループコンプライアンスガイドブック」などを作成し、全社員に配付しています。また「行

動憲章」のポスターや研修ビデオの作成・配付などを通じて、グループ全体へのコンプライアンス浸透を図っています。



セルフチェックカード

コンプライアンス研修

1999年から、三菱地所の役職員を対象に、コンプライアンス意識向上を目的とした研修を行ってきましたが、2006年11月からは改めて全社員を対象に、外部講師を招いてケースメソッド研修を始めました。受講者は5～6名のグループに分かれて討論し、コンプライアンス意識のさらなる向上を図っています。

ほかに新入社員研修や新任基幹職研修、グループ会社社長・社員対象の研修でもコンプライアンスについて取り上げ、考える機会を積極的に設けています。

Stakeholder OPINIONS

若い社員が真剣に考えています

三菱地所が2006年11月から始めた、全社員を対象としたコンプライアンス研修で講師を務めています。

これまで若年層の社員を中心に研修を実施してきましたが、過去4年間の不祥事などさまざまなことがあり、若い社員はコンプライアンスについて真剣に捉えているようです。社員のなかにも多様な意見が出てようになってきており、環境や社会貢献や地域社会に対する視点も変化してきています。



梅津 光弘氏
慶應義塾大学 商学部
准教授

モニタリングの実施

三菱地所ではコンプライアンスの浸透状況を確認するため、1998年からコンプライアンスに関するアンケートを実施しています。2002年からはアンケート対象をグループ全体に拡大しました。

こうしたモニタリングの結果分析を活用し、より一層実効性のあるプログラムづくりを進めています。

取引先との取り組み

公正で誠実な取引先との取り組み

三菱地所グループでは、「行動指針」のなかに適正な取引先の実践を掲げ、公正で誠実な取引先との関係を推進しています。

すべての取引先は対等な立場で信頼関係を築くパートナーであるという認識のもと、公正かつ透明性の高い取引先を行い、相互信頼を築きながら互いの発展をめざすことを目標としています。取引先は、自由、公正、透明な市場原理に基づいたものであることを念頭において、社会の信用を第一に考えた取引先を実践しています。

発注行動指針を策定

三菱地所では取引先への発注に関して、発注業務に携わる役職員が順守すべき基本的考え方をまとめた「発注行動指針」を策定したうえで、公明正大な発注を実践するように努めています。

事業セクションと発注セクションを明確に分離し、発注時には段階ごとにコンプライアンスのセルフチェックをチェックシートを用いて行い、その結果をCSR推進部で確認することで、適正な発注を行っています。発注先の選定は、品質の確保、適正な市場価格に基づいた客観性・経済合理性の確保、公平かつ公正な審査と評価、発注先を選定した理由・根拠・選定経緯などについて、決裁書類や記録などに明示することなどをルール化しています。

ほかには発注先の情報管理・環境保全対策に問題がないこと、反社会勢力との関係遮断、発注先との対等な関係、個人的な利害関係の禁止といった内容が指針に盛り込まれています。

三菱地所ホームの取り組み

注文住宅事業を行う三菱地所ホームでは、同社の事業特性を考慮した取引先との取り組み方針を設けています。まず基本

となる発注単価を発注先との合意のもとに設定し、それぞれの発注金額の決定にばらつきが生じることを防ぎ、同時に発注先相互の公平性が保たれるように努めています。なお基本となる発注単価は定期的に見直しを行い、急激な市況変動が生じた場合には発注先との協議によって単価改定などの措置を講じています。

また主要な部材のメーカーについては、同一の業種で一社独占とならないように複数購買を前提とした選定を行っています。同一業種におけるメーカー個々のシェアに関しても、公正な市場原理によって決定されるよう自由競争とし、メーカー相互の公平性が保たれるように配慮しています。

さらに製造元の製品原価と最終納入先までの物流経費を明確に分けることによって、製品原価と物流経費の透明性を高め、資材納入会社や製造元の公平な評価を行っています。工事金額の決定においても、工事原価と経費とを別計上し、安易な価格競争が発生しないように配慮しています。

取引先とのコミュニケーション

相互に信頼関係を築いていくべき対等なパートナーである取引先とは、緊密なコミュニケーションと情報の共有が必要不可欠であると考えています。お客さまの取引先への評価は、三菱地所グループへの評価に直結するケースが多いことを改めて認識し、取引先との協議や交流を重視した取り組みを行っています。

三菱地所ビル事業部門においては、取引先とのコミュニケーションの機会を豊富にする手法として「委託先評価制度」を設けています。これは年度初めに三菱地所と委託先の担当者が話しあい、年度の計画および目標を策定したうえで毎週「管理定例会」を実施し、十分な情報交換、意見交換、課題確認を行い、品質向上につなげていく制度です。加えて、三菱地所と取引先の経営陣によるミーティングも実施し、取引先の状況やビル現場の職場環境、業務課題などについて入念な意見交換を行い、現場スタッフが安心して力を発揮でき、お客さまに満足していただける環境を整えています。

情報開示とIR活動

迅速・正確かつ公平な情報開示

2006年3月から「情報開示規則」を施行し、会社情報の適時適切な開示体制を整備するとともに、株主・投資家の皆さまの視点に立った迅速・正確かつ公平な情報開示を徹底しています。

適時開示規則に該当する情報は、東京証券取引所の提供する「TD-net（適時開示情報伝達システム）」などを通じて公開し、三菱地所ホームページにも掲載しています。

また、適時開示規則に該当しない情報であっても株主・投資家の皆さまにとって有用な情報は、迅速かつ公平に、三菱地所のホームページなどを通じて積極的に開示しています。

IR活動の体制とミッション

IRの専任部署である「IR室」を、情報発信機能をもつ三菱地所広報部内に設けることで、株主・投資家、アナリストの皆さまだけでなく、お客さまやマスコミに向けても公平・公正な情報提供を行っています。

IR活動のミッション

- 適時・適切な情報開示
- 経営戦略の伝達
- 資本市場の声のフィードバック

株主・投資家、アナリストと経営陣との対話

三菱地所のホームページでの「IR情報」に加え、年2回の決算説明会、アナリスト向けスモールミーティングなどでは、経営陣も積極的に参加しています。株主や投資家の皆さまとの直接対話を通して、経営戦略をご理解いただくとともに、皆さまのご意見は経営に活かしています。株主・投資家・アナリストの皆さまからのご意見は「IR室レポート」として役員や関係部署に配付し、市場の声を経営にフィードバックしています。

より深くご理解いただくために

株主・投資家、アナリストの皆さまに、より深く三菱地所グループについて理解していただくために、左記の活動のほかに、物件見学会の開催や年間200件以上のアナリスト・投資家からの取材に対応しています。2006年9月には個人投資家向け説明会（名古屋証券取引所主催）にも参加しました。

IR関連ツール

- 会社案内
- アニュアルレポート（英文）
- 決算短信（四半期ごと）
- 有価証券報告書・半期報告書
- 『株主の皆様へ』（年2回）
- CSR報告書
- コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- ファクトブック
- 三菱地所ホームページ「IR情報」
<http://www.mec.co.jp/j/group/investor/index.htm>
- そのほか



四半期情報を三菱地所ホームページで開示
投資家の声をフィードバックする社内向け「IR室レポート」を発行

社外からの評価

● 「DJSI」に7年連続して選定

2006年9月、三菱地所は、Dow Jones Sustainability Indexes (DJSI) に7年連続して選定されました。アメリカDow Jones社は、世界26カ国2,500社の優良企業から持続的成長が見込まれる企業を選定し、インデックスとして公表しています。



● 「FTSE4Good Global Index」に6年連続して選定

2007年3月、三菱地所は、英国FTSE社から「FTSE4Good Global Index」の構成銘柄として6年連続して選定されました。「FTSE4Good」は、企業責任基準を満たす企業を選定することを目的とし、CSRの世界的な投資格付指数として高い評価を集めています。



社会貢献活動

社会貢献活動方針

三菱地所グループはよき企業市民として、事業内外の領域において、広く、さまざまな社会貢献活動に取り組むとともに、グループ社員の自主的な社会参加活動を支援しています。

企業が行う社会貢献活動を「社会が抱えるさまざまな課題に対して、当社グループが有する経営資源などを活用して支援、解決する活動」と定義し、事業領域を離れた本来の社会貢献活動に注力することはもちろん、広く事業領域のなかにおいても社会貢献に対する視点を積極的に取り入れるとともに、両者の中間的領域での活動も強化し、グループ全社をあげた社会貢献活動を推進していきます。

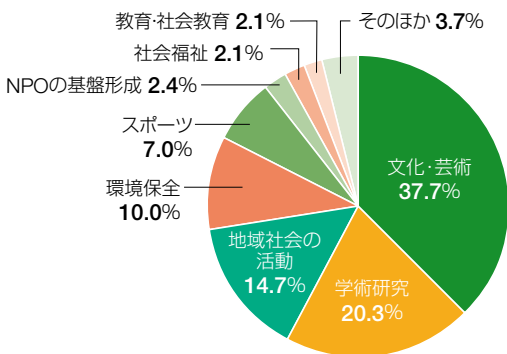
活動にあたっては、透明性、効率性、継続性を図るため、NPO団体など社会とのパートナーシップやステークホルダーとの連携、また目標管理や公表、見直しなど活動のマネジメントを進めます。

社会貢献活動実績

まちづくりを通じての地域社会での活動をはじめ、文化・芸術支援、環境保全、社会福祉などの分野を中心に、三菱地所の特色を活かした社会貢献活動に取り組んでいます。

2006年度、三菱地所単体の社会貢献活動支出は約7億3千万円となりました。

社会貢献活動の支出内訳



主な社会貢献活動の内容

キラキラッとアートコンクール

三菱地所では、障がいのある子どもたちの可能性を応援するため、障がい児童の絵画コンクールを2002年度より毎年開催しています。以来、毎年ユニークで秀逸な作品が数多く寄せられており、第5回となる2006年度は787点の応募があり、作品はすべて「こどものエコム」ホームページ (<http://www.kodomonoe.com>) で公開されています。三菱地所の社員投票、専門家による審査を経た優秀作品50点は、横浜ランドマークプラザをはじめ、仙台、大阪、東京、名古屋、福岡の6つの展覧会場で発表しました。

応募作品のなかからは、企業などのカレンダーや冊子の表紙に使用され、プロへの第一歩を踏み出した子どもたちもいます。作品の一部は本冊子の表紙にも使用しています。

「あなたのキラキラは？」投票

2006年度の「キラキラッとアートコンクール」では「あなたのキラキラは？」と題して、一部の展覧会場とインターネットで気に入った作品に投票していただきました。852人からの投票があり、それぞれの作者への応援メッセージが寄せられ、創作の励みになるように、作者にお届けしました。

●「はなび」への投票コメント

- ドーンと開いた花火にどんな夢を想ったのでしょうか!楽しい作品です。
- 6歳なのにすごい!! せんさいでいて迫力が感じられる作品でした。



Stakeholder OPINIONS

子どもがいきいきと生活するために

岡嶋 明美 氏

社会福祉法人東京コロニー アートビリティ事務局

「キラキラッとアートコンクール」に第1回から事務局として協力しています。このコンクールは、子どもたちの才能を応援する主旨で開催していますが、障がいのある子どもたちがいきいきと学校生活を送る、という意味でも大切な役割を果たしていると思います。最近では養護学校のパソコンの授業でもキラキラの作品を見せるのが定着しているようで、楽しみにしているという声もよく聞きます。

次世代育成のための体験型プログラム

三菱地所やグループ各社では、次世代を担う子どもたちに向けて、さまざまな体験型プログラムを提供しています。

● ヤングアメリカンズ丸の内プロジェクト

音楽公演と教育活動を行うアメリカの非営利団体「ヤングアメリカンズ」メンバーが来日し、首都圏各地で日本の子どもたちと歌やダンスのショーをつくり上げる、「ミュージカルアウトリーチ」に協力しています。丸の内プロジェクトは2006年8月の2日間、丸ビルホールを会場に「大丸有エリア」に在勤・在住する方々の子どもたち100名が参加。子どもたちとヤングアメリカンズメンバーが一緒になって音楽を心と身体で感じ、それを表現しながら1時間のショーをつくり上げ、最終日に家族の前で発表しました。



ヤングアメリカンズ丸の内プロジェクトの様子

● 夏休み!エコキッズ探検隊2006

2006年8月に「大丸有エリア」の企業が連携して、小・中学生を対象に環境教育イベントを開催しました。参加企業が取り組む環境保全活動などを題材としたワークショップや、ヒートアイランド現象や地球温暖化などの環境問題について、体験型学習プログラムを提供しました。

● 中学校の総合的学習の支援

建築・土木の設計監理業務を行う三菱地所設計では、建築やまちづくりを「総合的学習」の課題として取り上げた中学生に対し、その学習の支援をしています。会社訪問を受けた際には、設計事務所の役割の説明や、CADやCGの見学、実務担当者との対話を通して、建築やまちづくりについての理解を深め、職業観を養ってもらっています。

● 中等教育学校への環境教育

三菱地所では、社員が千代田区立九段中等教育学校で環境教育を行いました(08ページ参照)。

そのほかの社会貢献活動(一部抜粋)

地域社会の活動	
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャパン「熱狂の日」音楽祭2007	「クラシック音楽を誰もが気軽に、もっと楽しめるものに」を目的としたこのイベントに、三菱地所が協賛企業として参加 2007年度は10日間で106万人が来場
各事業エリアでの環境美化活動	商業施設やホテル、ゴルフ場などの多くのグループ会社が、近隣地域の清掃活動などに参加
丸の内シャトル(無料巡回バス)の運行(通年)	20社協働で、環境と人にやさしい「低公害」、「低騒音」、「低床」のバスを採用し、エリア内の利便性を向上
環境保全	
Nature Info Plaza 丸の内さえずり館	自然との共生をテーマに、NPO団体などと連携した展示やトークイベントなどを開催
大丸有地区「打ち水大作戦2006」	2005年より「全国一斉打ち水の日」を皮切りに、大手町・丸の内・有楽町地区「打ち水大作戦」を実施
社会福祉	
出張コンサート	子どもたちに良質な音楽を身近に感じていただくため、東京都内の養護学校などに若手演奏家を派遣して演奏会を開催(2006年度は5校で開催)
「野鳥と自然のお便り」の発行	「Nature Info Plaza 丸の内さえずり館」の関連活動として、目の不自由な方を対象に、美しい鳥のさえずりや自然に関するエッセイなどを収録したカセットテープを制作し、2000年より年4回発行(季刊)
文化・芸術支援	
アート・アワード東京	若手アーティストを支援する目的で、国内の各芸術大学の卒業制作を美術界の第一線で活躍する審査員が審査 2007年4～5月に東京駅前の「行幸地下ギャラリー」で展示会を開催

社員に対するボランティア支援制度とその利用実績はホームページ参照 <http://csr.mec.co.jp/houkokusho2007.html>